

JACフェスティバルを開催しました！

JACは、昨年7月1日に創立40周年を迎えました。創立40周年を記念した様々な企画を実施してきましたが、3月17日に鹿児島空港で、「つなげよう、未来の空へ Hop, Step, JAC!」をテーマにJACフェスティバルを開催しました。今号では、その様子を紹介します。

今後も、地域の皆さまに楽しんでいただける企画を準備してまいりますのでご期待ください。



JAC運航乗務員によるピアノ演奏でフェスティバルスタート!



空港ターミナルにJACブースを設置! JACイベントには欠かせない、イメージキャラクター「ルリー」も登場しました!!



アーカイブコーナーには、なつかしいYS-11の横断幕を飾りました。



空港バスツアーでは、滑走路周辺を1周しました。

また、JAC格納庫も見学!!



JAC誕生の地、奄美大島出身「元ちとせさん」のスペシャルライブ。国際線ターミナルの保安検査場前で!!



キャビンアテンダント体験



制服着用体験



飛行機タイヤ転がし



折り紙ヒコーキ教室



航空教室

どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

2024春(ひなげし)
Vol.27

JAC NOW

～ゆいタイム～



JACフェスティバル in 鹿児島 (2024年3月17日開催)

隠岐空港よりみなさまへ

今回は隠岐空港所の紹介をさせていただきます。隠岐空港は昭和40年に開港してから現在の空港は3代目になります。「隠岐世界ジオパーク空港」が愛称で、国内で「世界」がついている空港は、隠岐空港だけです。



また、隠岐諸島としては空港のある島が「島後(どうご)」、海を挟んである3島を合わせて「島前(どうぜん)」と呼ばれています。隠岐空港のとおき情報として牛、馬、相撲、星座の4つのキーワードを上げたいと思います。全て空港の敷地内で発見できますので是非探してみてください。

車椅子をご利用のお客さまから「ごめんねえ、迷惑を掛けて」と仰られることがあります。とんでもございません! 私たちはお客さまがご負担なくご搭乗いただけるお手伝いができていることを光栄に思っております。機内までの短い時間ですが、ご案内中のお客さまとの会話も楽しみに業務しております。杖をお持ちになってご利用されたお客さまが杖なしでご利用された際には自分の家族のように喜んだこともありました。

観光スポット、食材、資源と共に「人情」も隠岐の島の魅力の1つです。そんな隠岐の島にいつでも「ござらっしゃい!」(来てくださいね)

JAL隠岐空港 スタッフ一同



バックナンバーは、JACのホームページでご覧いただけます。
(<http://www.jac.co.jp/magazines/>)



この紙は国産竹100%を原料に鹿児島県薩摩川内市で作られる「竹紙」を使用しています。木を切らず竹から紙を作る取り組みは、環境と森を守り、里山や生物多様性の保全、地域経済に貢献しています。



健康コラム



SORA SAUNA

はじめまして! JACサウナ部、副部長の西上(にしがみ)と申します。皆さま! 突然ですがサウナはお好きですか? 昨今、サウナはブームを超えて生活の一部に溶け込むほど人気なものとなっております。この「SORA SAUNA」はサウナが生きがいのJACサウナ部がサウナの魅力を勝手に紹介していく自由なコラムとなっております。記念すべき第1弾では「サウナとは? とのうとは?」をテーマにご紹介していきます。それでは、ようこそ! 「ととのう」の世界へ

サウナとは

高温になった室内に入り、体を温め発汗するフィンランド発祥の温浴法のことです。「サウナ」⇒「水風呂」⇒「休憩」を1セットとして、合計3セット行うのが基本の入り方と言われています。もしまだサウナに入ることがない方は勇気を出してその扉を開けてみてもらえると嬉しいです。

体に起こる良い影響について

サウナ浴を行う事で以下の効果が得られると言われています。

- ①血液の流れが良くなる
- ②美肌効果
- ③疲労回復・リラックス効果
- ④自律神経が改善される
- ⑤心地良い疲労感が得られ、よく眠れる

総じて体と心に良い効果が沢山あるというのがサウナというわけです。今よりもっと若々しくいたい方やリラックスやリフレッシュを求められている方にはサウナがうってつけなのです。

「ととのう」という事

「サウナ」⇒「水風呂」⇒「休憩」を繰り返すと体がフワッと軽く感じて頭がクリアになることがあります。これが心も体もリラックスした状態「ととのう」という事です。その瞬間のその場所はあなただけのVIP席です。飛行機の窓から見える空と海の鮮やかな景色があなただけのものであるように、あなただけの特別な時間をサウナは与えてくれるのです。

健康経営の取り組み

日本エアコミューターでは社員、会社、健康保険組合が一体となってJALグループの健康推進活動「JALWellness」の推進に取り組んでいます。

『空の上の航空教室』

飛行機 ～防除氷のしくみ編～



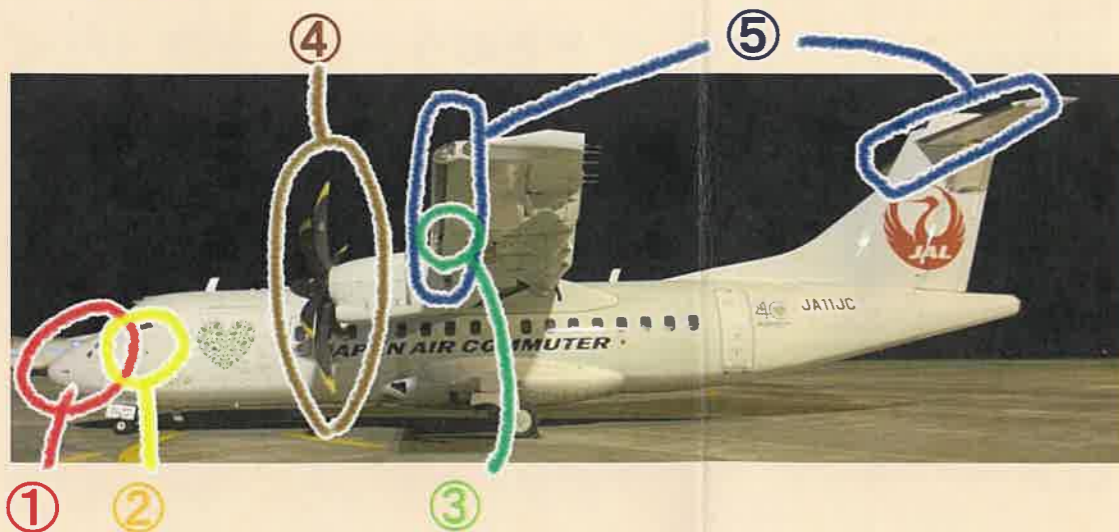
今回は福岡、出雲JAC整備基地より、飛行機の航行中、地上での着氷に対する様々な対策をご紹介します。

↓ **そもそも飛行機に氷が付くとどうなる？**

飛行機に氷が付着すると飛ぶ能力が低下する為、低温となる高い高度を飛行する飛行機には、氷の付着に対する様々な対策が施されています。その代表的な対策をご紹介します。



では、JACが運航しているATR機の対策を見てみましょう！！
下の写真の部分に対策されている箇所です！！



① PITOT TUBE (ピトーチューブ)

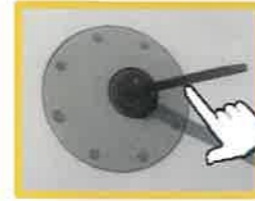


飛行機は速度、高度などを測定する重要な装備品です。
内蔵された電熱線で温めて氷が付くのを防いでいます。

STATIC PORT (スタティックポート)



② AOA VANE (エーオーエーベーン)



飛行機は気流に対し上下の角度(迎角)を上方に取りすぎると浮き上がる力(揚力)を失ってしまいます。

そのために、迎角を測定する目的で装備されている重要な装備品です。
この装備を氷の付着から守るために内蔵された電熱線にて温めています。

③ ICE DETECTOR (アイスディテクター)

飛行機への氷の付着を検知する装置です。
氷が付着した場合にパイロットに知らせ、パイロットは、氷を取り除く防水装置を作動させます。



この装置は飛行中常に振動しており、氷が付着すると振動数が変化します。この原理を利用して着氷を検出しています。



④ PROPELLER (プロペラ)

飛行機に推進力を与える装備品です。
氷がプロペラに付着するとその推進力が失われる為、プロペラの前縁部に内蔵された電熱線で温めて、氷が付着するのを防いでいます。



⑤ 翼の着氷防止

WING DE ICE BOOTS (ウイングデアイスブーツ)

翼の前縁部に、ゴム製のシート(ブーツ)が貼り付けられています。
このブーツがエンジンから抽気された空気によって膨張、収縮することで付着した氷を取り除いています。



*主にプロペラ機に装備

WING ANTI ICE SYS (ウイングアンチアイスシステム)

翼の前縁部の内側にエンジンから抽気された高温の圧縮空気を吹き付けて、温めることで氷の付着を防いでいます。(他に電熱を用いた方法もあります。)



*主にJET機に装備

駐機中の着氷への対策

飛行機は、翼、プロペラ、エンジンの空気取り入れ口等の重要表面に氷、雪、霜が堆積または付着したまま離陸してはいけません。
これは条約によって決められています。
飛行機が離陸する為に地上では、着氷の対策として防除雪氷作業を行っています。
防除雪氷作業には、除雪氷(DE-ICING)と防雪氷(ANTI-ICING)があります。



除雪氷(DE-ICING)は、飛行機に付着した氷、雪、霜を取り除くことを言います。方法は、竹ぼうきや空気を勢いよく吹き付けて取り除く方法や、専用の防除雪氷液を散布する方法があります。

防雪氷(ANTI-ICING)は、飛行機に氷、雪、霜の付着や溶けた雪氷の再氷結を予防することを言い、防除雪氷液を散布することによって対策します。

その液の役割は、雨や雪の凍結温度を下げて飛行機の着雪氷や積雪を遅らせることで、離陸するまでの着氷を防ぐことです。防除雪氷液の種類は、Type I～IVの4つに分類され用途により使い分けられています。

これらの作業によって、飛行機の安全な離陸に繋がっています。